

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立大久保小学校 ■ 学校の共通目標 【HP公開用・様式1・令和7年5月27日】

授業作り	重点	・習熟度別指導・ティームティーチング・視覚的な教材提示などの指導体制や方法の工夫及びICT環境・タブレット端末の効果的な活用で分かる授業を展開する。 ・言葉による理解をさらに深めるために具体物操作や体験的活動を授業に積極的に取り入れる。 以上の取組で、確かな学力を育成する。
環境作り		語彙力を豊かにし、主体的な学習力を高めるために、本や辞書などの読み物を身近に置いたり、発表の仕方を掲示したりする。自学する力の伸長を目指して、朝の学習時間、家庭学習、タブレット端末等の活用を校内で共通して実践していく。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・ひらがな、かたかな、漢字を丁寧に書くことができ正しく使うことができる。読書量を増やす。 ・数の概念を理解し、たし算、ひき算を計算することができる。 ・生活経験を生かし活動することができる。体験を振り返ることができる。	①書き順、字の形を意識して書くよう指導する。読み聞かせを行う。教室の本コーナーを充実させる。 ②具体物や身の回りにあるものを使い、理解を深める。 ③子どもの思いや願いを大事にして学習を進める。振り返りは絵や言葉、文字でアウトプットできるように指導する。
2 学 年		・ひらがな、かたかな、漢字を正しく習得し、文の中で書くことができるよう指導する。 ・具体物からたし算やひき算の計算が理解できるようにする。 ・体験したことや学習の振り返りを話したり、書いたりすることができるようにする。	①字の形、筆順の丁寧な指導をする。定着はテストで確認をする。 ②ブロックや具体物やICT機器を活用して理解と定着を図る。 ③生活科での体験活動と振り返りの時間を充実させる。
3 学 年	・新宿区学力定着度調査では、国語、算数共に区の平均を下回った。 ・国語は「書くこと」「説明的文章」に課題がある。個人差が大きく、個別指導が必要である。 ・算数は「長さ」「体積」に課題がある。集団での指導や習熟度別指導が必要である。	・既習漢字、新出漢字の定着を図る。 ・説明的文章の読解力を伸ばす。 ・長さや体積は体験を通して理解できるようにする。 ・算数は習熟度別に数多くの問題に取り組む。	①新出漢字の学習、小テストの活用、まとめテスト、復習テストなど何度も確認して指導する。 ②ノートを活用し、説明的文章の読み方を学習する。 ③文と文のつながり、語と語のつながりや様子の言葉を意識して話したり、書いたりする習慣を付ける。 ④算数は実感を伴うように体験的活動を常に取り入れ、量感を捉えられるようにする。 ⑤ベーシックタイムにデジタルドリルやプリントを活用して、繰り返し問題に取り組む。

4 学 年	・新宿区学力定着度調査では、国語、算数ともに区の平均値を下回った。特に苦手とする領域は、国語「漢字の書き取り」「読むことに関する記述問題や選択問題」、算数「時刻と時間」「長さ」と測定」「作図」「わり算」である。 ・ほぼ全ての領域・単元で学習の個人差が大きく、基本的事項にさかのぼった個別指導や、単元の復習などの集団指導も必要である。	・既習漢字及び新出漢字の定着をより一層図る。 ・読む活動を取り入れ、文章から情景を想像する力を養っていく。 ・読解問題に日常的に取り組むことで読解力を育成する。 ・四則計算、単位換算、時刻と時間の復習を日常的に取り組んでいく。	①ノート、ドリルの取組状況を定期的に確認し、指導する。 ②漢字の小テストを定期的を実施し、習得状況の把握をする。 ③朝学習の時間に絵本の読み聞かせや、読書活動を多く取り入れる。また、国語、算数の復習も並行して実施する。算数では文章問題を図や絵などで表し想像できるようにする。 ④算数では既習事項を確認しながら、学習を進める。 ⑤復習プリントやデジタルドリルを活用し、繰り返して学習をする。
5 学 年	・新宿区学力定着度調査では、国語は区の平均値を下回り、算数は区の平均値に近い点数を取ることができている。国語では「書くこと」においては比較的理解ができている。「読むこと」「話すこと・聞くこと」「言語」の力の向上が必要である。 ・算数では「図形」においてはよく理解ができている。「データの活用」においては課題が残るため、重点的な指導が必要である。	・言葉の意味について理解し、より多くの語彙を獲得できるようにする。 ・自分の考えを話す、相手の話を聞く活動を積極的に取り入れ「話すこと・聞くこと」「言語」の力の向上を図る。 ・具体物や体験活動を取り入れ、数量感覚を養えるようにする。	①国語辞典と漢字辞典を常時携帯し、活用する。 ②朝の会のスピーチやペアトーク、小グループでの話し合いの機会を多く設け、聞くことの徹底を図る。 ③具体物の活用や体験活動の機会を積極的に設定する。 ⑤計算プリントやデジタルドリルなどを活用し、基礎・基本の定着を図る。
6 学 年	・新宿区学力定着度調査において、国語は基礎・応用とも区の平均を10点以上下回った。特に、「書くこと」「読むこと」については15点以上も下回っており、重点的な指導が必要である。 ・また、算数では、応用では、全国平均を上回り、基礎でも全国平均並みの結果だったが、区の平均と比べると下回っている。領域別では、全国と比較すると、ほぼ上回っているが、「変化と関係」の領域では、全国、区平均と比べて下回っているため、習得、及び定着を図っていくことが必要である。	・「書くこと」の充実のために、より多くの語彙を獲得できるようにする。 ・作文等、自分の考えや意見を自分で推敲できるようにするために、正しい表記や言葉のつながりを理解できるようにする。 ・数量感覚を養うことができるよう、具体物や体験活動を取り入れ、どのように変化していくかを視覚等、感覚的に捉えたり、それを図や式にして表現したりできるようにする。	①自分の考えや意見を文章化する機会を積極的に設定する。 ②読書本や辞典等の環境を整え、日常的な活用を促進する。 ③具体物の活用や体験活動の機会を積極的に設定する。 ④数量変化の様子がわかる等体験活動の機会を積極的に設定する。 ⑤デジタルドリルを活用する。
特 別 支 援			